

令和2年度三次市学力到達度検査結果分析及び指導改善計画

三次市立十日市中学校

1 国 語

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年	話す・聞く能力	目標 +3.0%	結果 -2.6%	<p>「日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話していますか。」の質問に62.1%が肯定的に答えており、84.3%の生徒が国語で勉強したことが生活の役に立つと答えている。</p> <p>「わからない言葉があるときは国語辞典を使いますか。」の質問に、69.5%が否定的に答えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字練習の宿題と漢字テストを続ける。間違いやすい漢字は、授業で特に取り上げて全体指導をする。 話し合いのスキルや展開の仕方の指導を行い、課題を解決に向けて話し合う機会を効果的に設定する。 分からない言葉は放っておかず調べる習慣をつけたい。国語辞典を使う機会を増やすなどの工夫をしたい。
	書く能力	+5.0%	+3.0%		
	読む能力	+5.0%	+2.2%		
	言語	+5.0%	0.0%		
	結果	<p>○指定された条件に従って文章を書く問題や、登場人物の心情をとらえる問題などの正答率が目標を上回った。文章を書く機会を特に意識して設定したり、描写に着目して読む指導を続けたりした結果が出たと考える。</p> <p>●話し合いの工夫に関する問題、小学校で習った漢字の問題が目標値を下回った。</p>			
第2学年	話す・聞く能力	目標 +1.0%	結果 +3.1%	<p>「国語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか。」の質問に、76.8%が肯定的に答えている。</p> <p>「わからない言葉があるときは国語辞典を使いますか。」の質問に69.8%、「日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話していますか。」の質問に44.2%が否定的に答えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を表す描写に着目し、抽象的な表現に登場人物の心情が隠されていないかを考えさせるなど工夫したい。 今行っている新聞のコラムを視写する課題をさせる時に、分からない言葉を調べるよう指導したい。 話し合いの機会を意識して仕組むなど、自分の思いや考えを話す場面を授業でも積極的に設定したい。
	書く能力	+2.0%	+2.1%		
	読む能力	+1.0%	+1.2%		
	言語	+2.0%	+3.1%		
	結果	<p>○教科全体の正答率は、三次市の平均を1.9%、全国平均を5.7%上回った。</p> <p>○「書くこと」の領域における正答率が、どの問題も80%以上と高かった。新聞のコラムを視写し、要点をまとめる課題を続けた結果と考える。</p> <p>●登場人物の心情をとらえる問題、文章の表現の特徴をとらえる問題の正答率が目標値を下回った。</p>			
全体	<p>○全体的に、「書くこと」の領域に関する問題の正答率が良好であった。</p> <p>●どちらの学年も、「話すこと・聞くこと」の領域に関する問題に、目標値を下回ったものがあった。</p>			<p>どちらの学年も、国語の勉強をしたことで生活の中で役に立つと感じていることが分かった。また、分からない言葉があってもそのままにしているという傾向が特に見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて話し合う場を設ける。その際、役割をもたせるなど、主体的に話し合いに参加する態度を育てたい。 生徒自身の言葉で説明させる機会を設けたり、さまざまな表現の仕方を考えさせたりするなど、語彙について意識をもたせたい。

2 社会

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年	目標	結果	<p>○予習プリントを基にした授業と振り返りを2回書かせるノート指導を積み重ねてきた結果、「思考・判断・表現」は+3.0%、技能は+1.9%とほぼ目標を達成できた。</p> <p>●進捗の関係で小テストを省いたので、「知識・理解」の全国平均比が0%で目標が達成できなかった。</p>	<p>社会の勉強が好きで、新聞やニュースに関心を持ち、生活の中で役立っていると感じている生徒が、半数以上いる。また、歴史関係の本を読むのが好きである生徒も半数以上いるが、地図帳などを調べる生徒が、半数以下である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識を定着させるため、授業内容を精選し整理する。 基本的な知識を定着させるため、定期的に小テストを実施し、家庭学習を課す。 地理の学習に興味を持たせるため、地図帳を使った授業づくりを進める。
第2学年	目標	結果	<p>○定期的に小テストを実施することで、知識の定着や資料活用の技能の育成を目指した。また、根拠をもとに考えを表現させる場を意識して作ることで、表現力の育成を図った。</p> <p>●社会的事情についての知識・理解の値が低く、知識が定着できていない。</p>	<p>「社会の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」という質問に対して半数以上の生徒が肯定的な回答をしているが、「わからない地名に出会ったら地図帳などを使って調べますか」、「歴史上の人物や出来事をあつかっている本を読むことが好きですか」という質問に対して半数以上の生徒が否定的な回答をしていることから、社会的事象に関する興味・関心が低いことが分かる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「社会の勉強をしたことによって、新聞やニュースに関心を持つようになり了吗か」という質問に対して半数以上の生徒が肯定的な回答をしていることから、身近な事例を取り上げたり、社会的事象を身近なものに関連付けたりすることによって、生徒の興味・関心を引き出す工夫を行う。
全体	<p>●基礎的・基本的な知識が定着しきれておらず、社会的事象についての知識・理解の値が目標を下回った。</p>			<p>学習意欲が高く意欲的に授業に取り組むことができるが、「わからない地名に出会ったら地図帳などを使って調べますか」という質問に対する肯定的評価が低く、自ら進んで課題を解決していこうとする意欲が低い。</p>	<p>社会的事象について興味・関心を持たせるために、生活と結び付けた課題設定や地図帳を使った授業づくりを進める。また、基本的な知識を定着させるための小テストを定期的実施することで、生徒の理解度を把握し、授業づくりに取り入れていく。</p>

3 数 学

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	考え方	目標	結果			
第1学年	考え方	+2.0%	-6.0%	<p>○図形領域については、市平均・目標値と差があまりない。</p> <p>●関数領域においては目標値との差が大きく(目標値-11.9%)、1次方程式、比例・反比例において、目標値より-10%以上となっている。</p>	<p>「数学の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の項目における肯定的評価の割合は 87.3%であり、数学の学習に有用感をもっていることがわかる。</p> <p>「数学の時間に、いろいろな考え方を発表し合うことは好きですか。」の項目における肯定的評価の割合は 50%よりも低いが、「問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。」の項目における肯定的評価の割合は 50%より高いことから、積極性が低い、学習意欲は高いことがわかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解き方が複数ある問題を設定し、生徒が自身以外の考えに触れることで、それぞれの良さに気づき、互いに認め合うことができるような授業の工夫をする。 ・ 2学年での関数領域での指導において、振り返りと丁寧な指導を行い、問題を多く触れる中で、解き方や考え方を身に付くように指導を行う。
第1学年	技能	+3.0%	-9.2%			
第1学年	知識・理解	+2.0%	-4.4%			
第2学年	考え方	+2.0%	-2.9%	<p>●代入法の原理を用いて連立方程式を解く問題の正答率が、市平均・目標値との差が大きい(目標比-11.7%)など、目標値比が-10%以上である問題が複数ある。</p> <p>○単項式の除法、1次関数の表からグラフを選ぶ、同位角・錯角・多角形を用いた角度の計算といった問題の正答率が目標値より 10%以上高い。</p>	<p>どの項目も、全国平均と大きな差はないが、昨年度の結果と肯定的評価の割合を比較すると、「問題が解けなかったとき、なぜ解けなかったかをふり返って考えようとしていますか」の項目で+10.1%、「問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」の項目で-7.0%、「数学の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の項目で-11.4%と変化が大きかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学年から2学年になり、内容が抽象化、一般化していったことで、算数的な思考から数学的な思考へ変わってきていることが意識調査からわかる。 ・ 問題別の正答率をみると、ひとつひとつの学習内容を理解するために時間がかかるため、幅広い技能、思考にまで至っていないと考えられる。課題に取り組む姿勢を高めることで、時間短縮を図るように仕組む。
第2学年	技能	-3.0%	-0.9%			
第2学年	知識・理解	-2.0%	-3.7%			
全体	<ul style="list-style-type: none"> ●文字式と方程式、比例、反比例、1次関数のように、“似て非なるもの”の扱いが困難な生徒が多い。 ●問題文の修飾関係や通常用いられる言葉、数学用語などの理解力が極端に下がっている。 			<p>1, 2学年ともに学習意欲はあるが、理解が伴わないため「なぜ解けなかったのか」を考えることが多くなっているが、同じ間違いを繰り返す場面が多いのが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間の復習として、いろいろな似たものを混ぜた問題を解く課題に取り組むことで、“似て非なるもの”の違いを整理できるように仕組む。 	

4 理 科

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	思考・表現	科学的な	結果			
第1学年	思考・表現	科学的な	+0.6%	<p>○基礎を問う問題の正答率は 3.6%全国平均正答率を上回った。観点別でも知識を問う問題が全国平均を上回り、授業の中で協同学習を中心に課題解決をした成果と考える。</p> <p>●技能を問う問題の正答率が全国平均正答率を下回った。今の状況の中で、実験を中心に授業ができていないことが原因と考える。</p>	<p>「理科を学習することが好きですか。」の肯定的回答が全国平均を上回り、理科を学習することを楽しみにしていると考えられる。</p> <p>「理科の勉強で、実験や観察をすることは好きですか。」の肯定的回答が全国平均より 5.5%低い。自分で実験させていないことが技能の正答率の低さにつながったと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題発見・解決学習」や協同的な学習を通して理科を学習する楽しさを実感させる。 ・できるだけ多くの実験を生徒に体験させ、技能の定着を図る。 ・自分の考えを相手に分かりやすく説明する場面やレポート課題を設定する。 ・理科で学習する内容と身のまわりの自然現象を関連付けて授業を行い、自然や理科に対する興味関心を高める。
	技能		+3.0%			
	知識・理解		+3.0%			
第2学年	思考・表現	科学的な	+3.5%	<p>○可能な限り、実験や観察の中で科学的な思考を育てることに重点においた授業をしてきたことで、思考・表現に関する問題の正答率が上がった。</p> <p>●4月・5月の休暇とその後の授業のスピードアップで例年より生徒実験の回数が減ったことで、実験の技能に関する問題の正解率が下がった。</p>	<p>意識調査の結果から、実験や観察が理科の学習の中で楽しく学習できる時間であることが推測できる。ただ、今年は2カ月分の学習の遅れを取り戻す必要があり、学習スピードのアップのため十分な生徒実験や観察の時間を確保できなかったことが、楽しいという気持ちで学習できていない一因であると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に対する興味を持たずに座っている生徒、授業中の説明を聞いていない生徒の数が多。タイミングを考えながら、課題や小テストを多く取り入れるなどの取り組みを行う。 ・理科の学習と実生活との関連性を常にリンクさせるような話題をとり入れることで、理科に対する興味、関心を高めていく。
	技能		+2.0%			
	知識・理解		+2.0%			
全体	<p>○全体的には、科学的な思考・表現は全国平均と比べて概ね良好であった。</p> <p>●技能の正答率が全国平均に比べて1学年-2.6%、2学年-6.4%と課題がある。</p>			<p>「理科の勉強で、実験や観察をすることは好きですか。」の肯定的回答が1・2学年ともに低い。また、「わからないことや興味・関心を持ったことについて自分から調べていますか。」「自然や理科についての読み物などをよく見えていますか。」の肯定的評価が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題発見・解決学習」や協同学習を通して理科を学習する楽しさを実感させる。 ・できるだけ多くの実験を生徒に体験させ、技能の定着を図る。 ・理科で学習する内容と身のまわりの自然現象を関連付けて授業を行い、自然や理科に対する興味関心を高める。 	

5 英 語

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
	表現の能力	理解の能力	知識・理解		
第1学年	目標 47.0%	結果 51.0%	○書く活動を定期的に取り入れたことで、自己紹介文を書く問題では、目標値に近い正答率であった。 ●語形・語法を理解して読み取る力や正しい語順で英文を書く力など、基礎知識が定着していないことが大きな課題である。	「学校の廊下で、外国人講師の先生に英語で話しかけられたら、あなたはどうしますか。」の質問に対し、83.2%の生徒が肯定的な回答をしている。 「英語の勉強が好きか。」の項目では、半数の生徒が否定的な回答をしており、英語に対する苦手意識が強い傾向がみられる。 家庭でもテレビ等で英語番組を見たり聞いたりする生徒の割合も32.6%で、自主的に英語に触れようとする意識や学習に取り組める生徒が少ない。	・「英語で話したい」と感じつつも、英語の学習意欲が低いことが課題として挙げられる。ペアやグループ学習などを通して、英語でやりとりをする機会を増やし、英語を使う楽しさや達成感を持たせることで、学習意欲を高めていきたい。また、基本的な語形、語法や語順指導に関する指導も行い、基礎知識の定着を図りたい。
第2学年	目標 0.0%	結果 +1.8%	○本文読解の授業で、英問英答等の設問の解答方法について指導したため、長文読解問題において全国平均を上回った。 ○定期的を書く活動を行ったことにより、「3文以上の英作文を書く」においては、全国平均を上回っている。 ●語形・語法を理解して正しい語順で英文を書く力が、定着しておらず、全国平均を下回っている。	・「学校の廊下で、外国人講師の先生に英語話しかけられたら、あなたはどうしますか。」という質問に対し、84.9%の生徒が英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしている。しかし一方で、テレビやラジオなどを用いて家庭で英語学習をしている生徒の割合は、25.6%に留まっており、自主的に家庭での英語学習を進める生徒が極めて少ない。	・「聞く」、「話す」などにおいて身近な話題を設定し、興味を持たせようとして、「できた」、「わかった」という達成感を持たせることで、生徒の学習意欲を高めていきたい。また、ペアやグループ学習などを通して、英語でやりとりをする機会を増やすと同時に語順指導や場面に応じた英作文が書けるよう、書く力の向上も目指して指導をしていきたい。
全体	○どちらの学年も長文読解力、3文以上の英作文においては、全国平均と比べて概ね良好である。 ●語形・語法を理解し正しい語順で書く力や場面に応じた英作文を書く力においては、両学年ともに大きな課題がある。			両学年とも実生活の中に英語の学習が生きていると感じていることがわかる。しかし、自主的に英語学習を進める生徒が少ないため、苦手意識を減らすためにも、英語の身近な使用場面を増やす必要がある。	・ALT を有効活用し、言葉を交わす楽しさを感じさせることにより、更に生徒の学習意欲を高めた。また、生徒間のスモールトークの積み重ねから、文字への定着をスパイラルに図りたい。

6 生活と学習に関する意識・実態

学年	○一層定着させたい点 ●改善したい点	課題に対する具体的な取組
第1学年	<p>○「勉強すれば自分はよい成績がとれる, 勉強すればふだんの生活や社会に出て役立つ, 勉強は大切だ」と肯定的に回答している生徒が多い。</p> <p>●「学校が好きだ, 勉強が好きだ, 授業が楽しい」の問いに対し, 否定的な回答をしている生徒が多い。新型コロナウイルスによる行事の縮小や中止, 7時間授業の実施などの影響が出ているのかもしれない。</p> <p>●土日の家庭学習時間が, 全国結果と比べ1~2時間少なく, 平日と同様に1時間以上, 2時間未満の生徒が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の関心意欲を高めるような課題設定を行い, 授業改善に努める。 ・今年度実施した行事を参考に生徒の達成感を高める行事を計画・実施する。 ・土日の時間の使い方を改めて考えさせる。
第2学年	<p>○全国平均に比べ, 「勉強すれば自分はよい成績がとれる, 勉強は大切だ」と肯定的に回答している生徒が多い。</p> <p>●全国平均と比べ「学校が好きだ, 勉強が好きだ, 授業が楽しい」の問いに対し, 否定的な回答をしている生徒が多い。新型コロナウイルスによる行事の縮小や中止, 7時間授業の実施などの影響が出ているのかもしれない。</p> <p>●土日の家庭学習時間が, 全国平均と比べ1~2時間少なく, 平日と同様に1時間以上, 2時間未満の生徒が多い。また, 1時間未満や全くしない生徒が41.8%もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の関心意欲を高めるような課題設定を行い, 授業改善に努める。 ・今年度実施した行事を参考に生徒の達成感を高める行事を計画, 実施する。 ・土日の時間の使い方を改めて考えさせ, 家庭学習の習慣が身につけていない生徒には, スモールステップをとりながら, 毎日少しでも課題をする時間をとるよう保護者に協力を求めながら, 声掛けを行う。
全体	<p>○勉強すれば受験に役立つ・仕事に役立つと考えている生徒が多い。</p> <p>●1・2年生共通して「学校が好きだ, 勉強が好きだ, 授業が楽しい」の問いに対し, 否定的な回答をしている生徒が多い。</p> <p>●土日の家庭学習時間が, 全国平均と比べ1~2時間少なく, 平日と同様に1時間以上, 2時間未満の生徒が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に学習や生活の振り返りをうながし, 自分を見つめ, 自分で決定して取り組ませることで主体性を育成する。 ・各授業や行事で自己選択できる場面や協同学習の時間を増やし, 生徒が達成感や充実感を実感できる場면을仕組む。 ・家庭学習の必要性を改めて考えさせる場面をつくり, クラスで意見交流する。